



# わった～バス新聞

わった～バス党  
ホームページ



## 本島では延べ75万人以上が利用 バス無料乗車体験『わった～バス感謝祭 乗りほ～DAY』

◎本島では延べ75万人以上が利用  
無料乗車体験の効果として、まず挙げられるのが「乗客数の増加」。水曜日は平均1.3倍、日曜日は平均3.1倍、合わせると1.5倍に増加しました(図1)。

乗りほ～DAYの8日間合計で本島では延べ75万人以上が利用したことになります。特に平日では高齢者、休日では10代学生・児童の利用が目立ちました。

2024年9月の毎週水曜と日曜限定で実施された「わった～バス感謝祭 乗りほ～DAY」。沖縄県内の離島を含むほとんどの路線バスに無料で乗車できる機会として、新聞やSNSで取り上げられるなど、多くの反響がありました。たくさんのご乗車、本当にありがとうございました！このほどまとまった中間報告結果から抜粋してご紹介します。

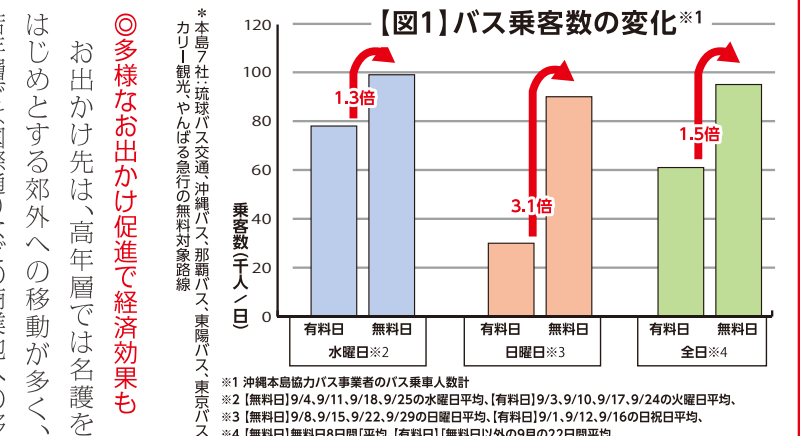


◎バス利用意向の高まり  
乗車体験後の利用者アンケートによれば「今後運賃を払ってバスを利用したい」と答えたのは74%にものぼります(図2)。特に60歳以上では83%が「利用したい」と回答しており、そのうち22%は運転免許を保有していない人です。

◎多様なお出かけ促進で経済効果も  
お出かけ先は、高年齢層では名護をはじめとする郊外への移動が多く、若年層では国際通りなどの商業地への移動が増加。平日は通勤や通学での利用、休日は買い物やプライベートのお出かけが目立ちました。

シニア世代はのんびりバス旅、若者は遊びや買い物を楽しむために利用していたようです。

特に那覇バスターミナル、開南、県庁北口、てんぷす前、胡屋など商業地のバス停では、水曜・日曜ともにふだんの2～3倍の乗降がありました。こうしたことから、今回の乗車体験は経済効果や心身の健康効果にもつながったといえそうです。



特に免許を持たないシニア層が、日常の移動手段としてバスを頼りにしていることがうかがえます。また、乗った人の多くが満足しているようで、これからもバス乗車体験の取り組みを続けてほしいという声が多数を占めました。(図3)

初めてバスに乗った人も、しばらくバスに乗っていなかった人にも、多くの方に今の路線バスを体験していただいた「わった～バス感謝祭 乗りほ～DAY」。

タッチひとつでカンタンに運賃支払いできるOKICAカード。お年寄りや車イス利用者にも乗降しやすいノンステップバス、待ちやすくなったグレードアップバスなど、使いやすいが進化した路線バスを、これからのお出かけの際の移動手段のひとつとして、ぜひ活用ください。

また、わった～バス党では令和7年度にも県民がバスに乗りたくなるような事業を企画中です。ご期待ください。

【図2】今後運賃を払ってバスを利用したいですか？

「はい」と回答した人の利用頻度

利用頻度	割合
平日はほぼ毎日使いたい	41%
月に1回程度使いたい	20%
週に1回程度使いたい	25%
年に数回使いたい	14%
いいえ	26%

【図3】今回のバス乗車体験事業は継続して実施して欲しいですか？

自動車免許	継続してほしい	継続しなくてよい	わからない
あり (N=3,218)	84%	10%	6%
なし (N=970)	89%	5%	6%

■継続してほしい ■継続しなくてよい ■わからない



### 「わった～バス利用促進乗車体験事業」 フォローアップ調査にご協力をお願いします

回答は ▶  
こちらから



# 誰でも快適に移動できる乗りものへ「バスの乗り方教室」今年度は支援学校・学級で実施

党首・幹事長と安全・安心のバス利用を楽しく学ぶことができる「バスの乗り方教室」。今年度は支援学校3校で行いました。

## 真和志高校×沖縄盲学校 同行援護従事者校外学習



介助者と介護者、2人1組でバスに乗り込む

1月17日に行われたのは、「同行援護従業者」養成を行っている県立真和志高校みらい福祉科が県立沖縄盲学校と共同で実施する校外研修。移動に困難を有する視覚障がい者に対して、バスやモノレールなど公共交通での外出に同行し、移動に必要な情報の提供や移動の援護を実践学習するものです。

はじめにバス党あさとはん幹事長と沖縄バス・屋宜さんが講師となり、バスの乗り方、障がい者、同伴介助者の運賃が半額になることなどを解説。続いて、白杖を手にした沖縄盲学校の生徒4名と先生、アイマスクをした要介助者役の生徒たちを、介助者となる生徒がペアとなって誘導し、路線バス車両に乗り込みました。

学校構内では立ち乗りの場合カーブやブレーキで身体が傾くなど安全確保が難しくなることも実体験。その後は公道に出て那覇空港まで乗車し、運賃支払いまで実践しました。

乗車中は「乗車時に必ず行き先を運転手に確認」、「段差や進行方向、急ブレーキなどに気をつけ、その都度要介助者に声かけ」、「守らないといけない要介助者を奥に座らせる」な

ど、細かな気遣いを確認しました。

介助者を体験したみらい福祉科の2年生女子は「初めての実践で不安もあったが、しっかり声かけて誘導することができた。実際にバスに同乗しないとわからないことが多く勉強になりました」とコメント。また盲学校の高校1年生は「介助者がしっかり声かけをしてくれたので安心して移動できました」と笑顔で話してくるなど、互いに学びを経験した貴重な機会となりました。

## 高原小学校 特別支援学級「ひなた組」



実際に整理券とお金を入れて練習する児童たち

1月29日には沖縄市・高原小学校で、特別支援学級の児童約60名を対象に、日頃乗りなれない路線バスの乗り方学習と乗車体験を実施しました。

党首と幹事長が講師となり、乗り方、運賃、OKICAの使い方、目的地までの路線の調べ方、公共交通を使う必要性などをわかりやすくかみ砕いて説明。その後、児童たちは東陽バスの貸切車両に乗り込み、市内を巡って県立総合運動公園へ。車中では、整理券による運賃確認のしかた、こども運賃の計算や降車ボタンを実際に押すなど、体験を通してバスに親しみました。また、運動公園の駐車場では運転席に座ったり、車イスの児童がスロープでバスに乗り込む様子も見学。

最後は、党首・幹事長がユーモアたっぷりのクイズで児童たちの興味を引きながら、学んだことを振り返りました。児童たちは「運転席に鏡が

いっぱいあってすごかった」「車イスがバスに乗るところを初めて見た」、「運賃表の見かたや計算のしかたがわかった」と次々にコメント。

先生もその様子に目を細め、「みんなバスに乗ることのできるいろいろな体験ができ、楽しい勉強会になりました」と感想を話してくれました。

## 島尻特別支援学校



大きなハンドルを握って憧れの運転手を体験

2月4日の沖縄県立島尻特別支援学校での教室は、主に中学部約50名、高等部約60名を対象。卒業後の自立支援のため、移動手段の中心となる路線バスの乗り方を改めて学ぶ機会を作るのが目的です。

体育館に集まった生徒たちを前に、まずは党首・幹事長と琉球バス交通・小橋川さんの掛け合いで、乗り方の手順全般をわかりやすく説明。

その後、玄関前の路線バス車両へ移動。生徒たちはバスの大きさを実感したり、車イスでの乗車手順を見学。実際に乗り込み、整理券の受け取りや運賃確認などの実践や、運転席から死角の確認、マイクを使って車内アナウンスも体験しました。

バスが大好きで毎日自前の運転帽と手袋を身につけ登校するという男子生徒は、「将来は運転手になりたい！いつもアナウンスを家で練習しています。今日は夢が叶って運転席に座れてうれしい」とニコニコ。

最後の質問コーナーでは、「バスってたまに時間通りに来ないのはなぜ？」

「運賃はどんな時に上がるの?」、「運転手になるにはどうしたらいい?」など、素朴な疑問が生徒からたくさん寄せられ、それに答える小橋川さんや党首、幹事長のユニークな回答に会場は大いに盛り上がりました。生徒の様子を間近で見ている先生は、「楽しくわかりやすい説明のおかげで、生徒たちも集中しながら楽しく学べました」と喜んでいました。

「バスの乗り方教室」は誰でも安心して快適にバスを利用してもらうよう、学校、障がい者・医療施設、企業向けに実施中です。

◎「バスの乗り方教室」を希望する学校・企業や施設は「こちらまで」

沖縄県交通政策課  
TEL 098-866-2045

私たちがあなたの会社・学校に伺います!

## バスではじめる、春の新生活

この春、通勤や通学をバスにチェンジ!バス停まで歩く運動になり、移動時間で読書や勉強、音楽も楽しめて仮眠もOK!渋滞の中で運転しなくていいからストレスフリー。節約にもなりますよ。

まずはルート・時間・運賃をチェック



## 法人党員新規企業紹介

◆明治安田生命 沖縄支社

支社所在地が那覇市久米で、その他に那覇市内に3つ、浦添市・沖縄市・北谷町・名護市にそれぞれ1つ、合計8つの事業所があり、県内でさらなる地域貢献を実施推進のため、入党を決意。自動車通勤から公共交通機関への利用転換を社内で呼び掛け、バスの遅延が発生しないよう交通渋滞緩和に貢献したいと考えています。



法人党員は継続募集中! 詳しくはこちらまで



今年もたくさんのご応募ありがとうございました!

## 「かなえ!夢バス 図画コンクール2024」

「あったらいいな、こんなバスをテーマに、県内の小学生を対象に開催された「かなえ!夢バス図画コンクール」。離島を含めた57校から258点の応募があり、わたったバス党のあさとゆう子党首・あさとばん幹事長、バス会社各社琉球バス交通・那覇バス・沖縄バス・東陽バス、沖縄県バス協会、沖縄県絵本作家として活躍中のデザインオフィスエガク代表、しるませいゆうさんらが審査を行い、18点の入賞作品が決定。

昨年11月15日の表彰式で入賞作品に賞状と賞品が贈られました。

最優秀賞は竹富町立黒島小学校2年生、新里渚(しんざと)なつきさんの「こーたーあんだぎーバス」で、「おねえちゃんたちが作ってくれるさーたーあんだぎーが好きでバスにしました」と話してくれました。他にもジンベエザメやキジムナー、パイナップルをモチーフにしたり、世界や宇宙を走るバスなど、自由な発想がいっぱい。審査員のコメントは次の通り。

「これからもおもしろい作品を待ってます! (しるま)」

「みんな自然体でのびのび描いているのがいいさ。(ゆうこ)」

「毎回みんなのアイデアには本当に驚かされます。すごい! (ばん)」

最優秀賞作品は2台の路線バスにラッピングされ、バス車内には入賞作品も掲示されて2025年3月末まで運行予定です。子どもたちの夢のバスをぜひお楽しみください。



入賞者全員でラッピングバスの前で記念撮影